

第3次対馬市総合計画（素案）に対する 意見（パブリックコメント）の募集の結果

第3次対馬市総合計画（素案）に対して、ご意見を募集しました。
お寄せいただいたご意見に整理し、それらに対する考え方を以下のとおりまとめましたので、報告いたします。

1. 実施期間

令和8年1月7日（水）～令和8年1月20日（火）

2. 意見提出者数

持参	郵送	FAX	メール	合計（意見提出者数）	（参考）延べ意見数
	1		2	3	10

3. お寄せいただいたご意見の概要及びご意見に対する回答（考え方）

No.	頁	意見の概要	回答（考え方）
1	1, 3	自治体は「市民生活のディフェンダー」と捉えております。 素案の1ページに対馬市総合計画策定の重要な視点として「市民の命と暮らしを支える地域構造への転換」という記述がありますが、さらにもう一步、「具体的にどのように保証（ディフェンス）するのか」	総合計画は、構想と戦略において目標と方針を示し、取組は、関係部署による個別計画等で具体化することとしております。 今後、個別計画やアクションプランの策定・更新時に検討させていただきます。
2	3	素案3ページでは市民・事業者・行政職員・議員が自分事として実行することが大切と説いていますが、実際の戦略が「市民の日常」にどう降りてくるのか切り口ではやや不透明で、場合によっては「上滑り」となることを憂慮しております。	総合計画は、構想と戦略において目標と方針を示し、取組は、関係部署による個別計画等で具体化することとしております。 今後、個別計画やアクションプランの策定・更新時に検討させていただきます。 本計画は、行政だけではなく、市民の皆様との協働により、しまづくりの効果が高まります。市民の皆様におかれましては、本計画の中で、皆様の立場や能力を發揮できる機会を見つけて、行政と共にしまづくりに取り組んでいただきたいと思います。 (P3 市民 行政と連携したしまづくり事業や取組の実施に関連)

No.	頁	意見の概要	回答（考え方）
3	3	<p>成果指標について 素案P3で「PDCAプロセスで適切に運用する」と明記されているが、5年、10年というスパンは行政の免罪符になりかねないため、単年度のターゲット（マイルストーン）がなければ、軌道修正という「A（改善）」が機能しないと思われます。このPDCAを実効性のあるものにするために、毎年度設定すべきと思われる。</p>	<p>成果指標については、構想では10年後、戦略については5年後に評価・検証を実施するとしております。 総合計画に沿って実施している事業の進捗状況確認及びモニタリング指標の確認は、毎年度実施し、審議会で評価、議会に意見を求めます。</p>
4	38	<p>「戦略1-1-1（想いを形にできる人を育てる）」に教育の記述はありますが、経済戦略（なりわい）と教育戦略が分断されていると思われます。「稼ぐ力」の源泉としての「知」への投資（教育と産業の連動）が経済セクションに明記されるべきと思われます。経済を発展させるための原動力は、人的資本やインフラのようなストックで、これを増大させるには膨大な時間と資金が必要ですが、特に人的資本、つまり教育への投資施策が少ないのではと思います。</p>	<p>〔ひと〕戦略1-1-1「想いを形にできる人を育てる・応援する」、〔なりわい〕戦略2-2-3「起業・創業しやすい環境を整える」、戦略2-3-3「学び直しの支援」において、人的資本への教育の視点の方針を示しておりますので、今後、個別計画やアクションプランの策定・更新時に検討させていただきます。</p>
5	39	<p>本計画（素案）の全体を通して、「オンライン窓口」や「ライドシェア（デジタル技術活用）」の記述はあるが、行政の意思決定プロセスへのデジタルの活用は広聴活動の充実程度に留まっている。単なる事務の効率化（行政DX）に留まらず、市民の声をリアルタイムに政策に反映させる「デジタル民主主義」的な視点やデータに基づいた透明性の高い行政運営の姿勢がかけられていると感じます。</p>	<p>〔ひと〕戦略1-1-3の具体的な方針で「より良いしまづくりに向けて、市民の意見や要望を聞くための広聴活動を充実させます。」と方針を示しておりますので、今後、個別計画やアクションプランの策定・更新時に検討させていただきます。</p>
6	44	<p>「守りの方針1-1-2（誰もが社会参画できる機会）」や「守りの方針3-3-3（地域共生社会）」はありますが、福祉インフラ（介護・医療体制）の維持についての具体的な「攻め」の視点が弱いかもしれません。「守るべきものを選び、重点投資する」という序論の視点に照らし、「高齢者が安心して最期まで暮らせるための医療・ケアの持続可能性をどう保証（ディフェンス）するのか、数値的な裏付けを伴う具体策が見えない」と感じます。</p>	<p>介護・医療体制については、〔ひと〕戦略1-3-2「いきいき暮らせる環境を整える」の中に記述しております。 市民生活にとって必要不可欠な内容であり、持続的に守るべきものであることから守りの方針としております。 総合計画は、構想と戦略において目標と方針を示し、取組は、関係部署による個別計画等で具体化することとしておりますので、今後、個別計画やアクションプランの策定・更新時に検討させていただきます。</p>

No.	頁	意見の概要	回答（考え方）
7	61～62 72	「つながり」は物理的・機能的なインフラ（交通・防災等）、「ふるさと」は精神的・文化的な価値（自然・歴史等）と整理されているようですが、「コミュニティ」という概念は両方にまたがっているため、施策の責任所在や資源配分が曖昧になる懸念があると思われる。	「コミュニティ」については、「つながり」と「ふるさと」の両方に記載しておりますが、各施策や取組を実施する場合は、総合計画の方針に沿って、各課が所管する個別計画やアクションプランを基に事業を実施するため、責任所在は曖昧になることはないと考えております。 また、事業の内容によっては、複数の課で横断的に事業を実施することもあります。業務分担をし実施する予定です。
8	65	守り4-1-2「対馬固有の生物多様性の保全・管理を進める」の具体的な方針のうち ・生物多様性に関する調査・研究を継続し、その成果を保全活動や管理手法の改善に生かします。とある中に、「対馬市レッドリストの作成」を追加を希望します。	[ふるさと] 戦略4-1-2の具体的な方針で「生物多様性に関する調査・研究を継続し、その成果を保全活動や管理手法の改善に生かします。」と方針を示しておりますので、今後、個別計画やアクションプランの策定・更新時に検討させていただきます。
9	68・72	各地区で地区ごとの歴史を調べ、冊子（文書でも可）として残すことを提案します。	[ふるさと] 戦略4-2-2「文化財の保存と継承を進める」、戦略4-4-2「地区の魅力を引き上げる」の中に具体的な方針を示しておりますので、今後、個別計画やアクションプランの策定・更新時に検討させていただきます。
10	39以降	モニタリング指標について 現在のモニタリング指標は、単なる「活動量」の計測に留まっているものが多い。予兆管理（先行指標）として機能させるには、その指標が変化したときに、戦略の成否をどう判断し、どう次の一手に繋げるのかという「活用シナリオ」がセットで示されるべきではないでしょうか。	P3の下段のPDCAの部分に、「KGI・KPI・モニタリング指標を用いて評価・検証する」ことを追記することとし、構想については10年後、戦略については5年後に、KGI・KPI・モニタリング指標を用いて評価・検証を実施し、計画内容をブラッシュアップするよう考えております。 総合計画に沿って実施している事業の進捗状況確認及びモニタリング指標の確認は、毎年度実施し、審議会にて評価、議会に意見を求めます。